

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立菅原小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	東淀川区
学 校 名	大阪市立菅原小学校
学 校 長 名	荒木 豊充

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

(2) 質問調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大阪市立菅原小学校では、第6学年 94名

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立菅原小学校の結果概要

本校の国語の平均正答率は61.0%で、大阪市（59.0%）・全国（60.9%）を上回る良好な結果となった。算数は56.0%で、大阪市と同等、全国（56.4%）とほぼ同水準であった。

平均無解答率は、国語1.7%、算数2.2%と、両教科とも大阪市・全国を下回った。このことから、児童が最後まで諦めずに問題に取り組む姿勢が定着していることがうかがえる。

今後は、国語の成果を生かしつつ、算数の学力向上に向けた指導の充実を図る。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

「言語の特徴や使い方」「情報の扱い方」で市・全国を上回る結果となった。「書くこと」「読むこと」も全国・市と同等以上の水準を維持している。一方「話すこと・聞くこと」は全国平均を1.6ポイント下回り、対話力や要点の聞き取り力の向上が課題である。

【算数】

「D データの活用」は全国・市を上回り、成果が見られた。一方、「C 変化と関係」は全国を4.2ポイント、市を3.4ポイント下回った。比例など、伴って変わる二つの数量の関係について、理解を深める必要がある。また、「A 数と計算」「B 図形」も全国・市をわずかに下回る結果となった。

今後は、国語の対話力の育成と、算数の基礎・基本の定着や数量関係の理解を重点的に進める。

質問調査より

児童質問調査では、自己肯定感や社会貢献意欲が高く、全国平均を大きく上回る結果となった。また、友だちとの話し合いを通じて考えを深めるなど、対話的な学びにも成果が見られる。一方、将来の夢や目標を持つ児童の割合は全国・市平均を下回り、学校生活の楽しさも全国平均をやや下回っている。

学校では、調査結果を活用した教育活動の改善や児童の主体的な取組・考えを伝える工夫を進めている。さらにICT機器の週3回以上の活用が定着しつつあり、今後も学習意欲や学校生活の充実につながる取組を推進する。

今後の取組（アクションプラン）

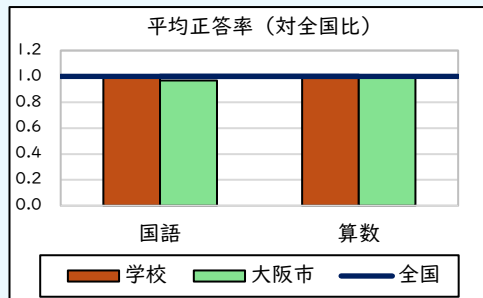
算数科では、特に「変化と関係」の領域で、表・グラフ・式を用いて数量の関係や解法の根拠を説明する活動を充実させる。国語科では、相手や目的に応じて分かりやすく伝え、互いの意見を尊重しながら話し合う力を育成する。ICT端末を活用し、考えの整理・共有・発信や、児童同士の相互評価を行う学習を推進する。

児童の高い自己肯定感や社会貢献意欲を生かし、児童会活動や地域貢献学習など、主体的に活躍できる機会を充実させる。さらに、学びと将来や社会とのつながりを実感できるキャリア教育を進め、夢や目標をもつ児童の育成を図る。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要

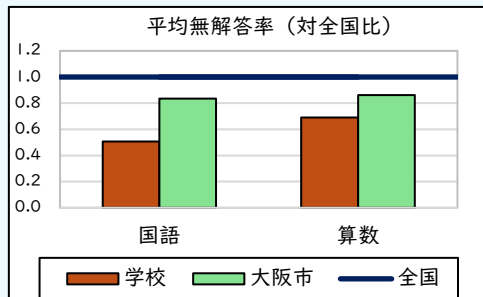
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	61	56
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



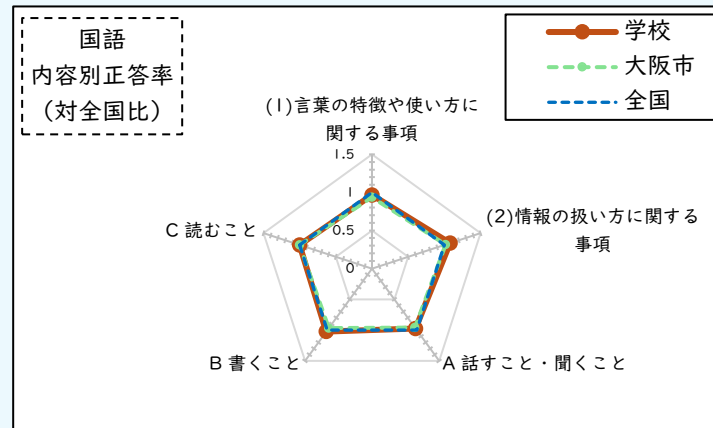
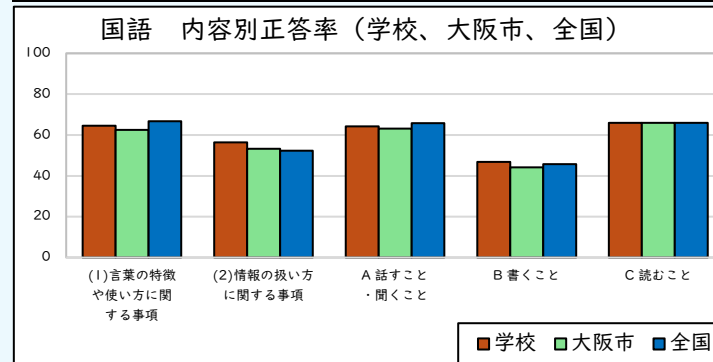
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	1.7	2.2
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



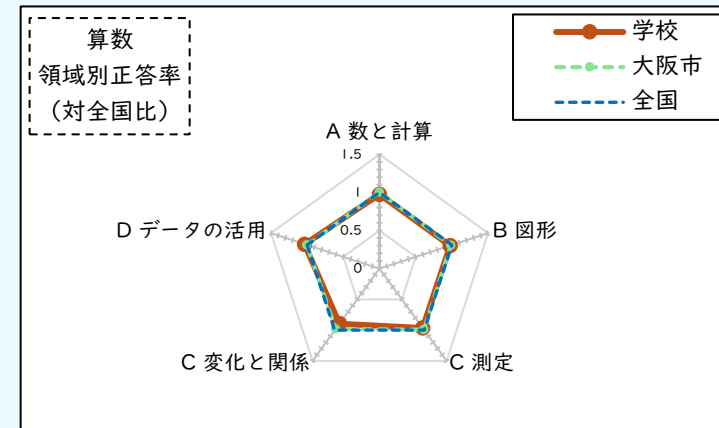
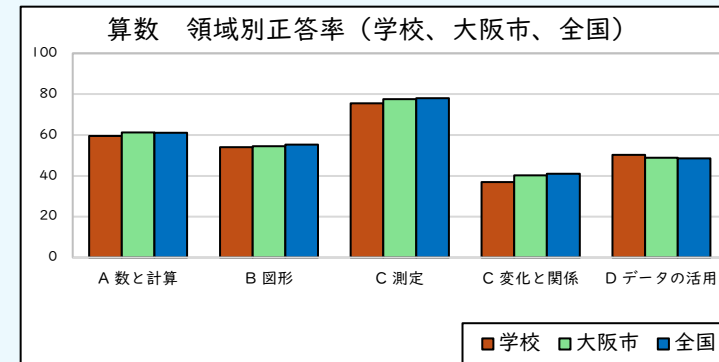
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	64.6	62.5	66.8
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	56.4	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	64.2	63.1	65.8
B 書くこと	2	46.8	44.2	45.7
C 読むこと	2	66.0	66.0	65.9



【算数】領域別正答率

学習指導要領の 領域	対象問題数 （問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	59.6	61.2	61.1
B 図形	4	54.0	54.5	55.3
C 測定	1	75.5	77.5	78.1
C 変化と関係	3	36.9	40.3	41.1
D データの活用	4	50.3	48.8	48.6



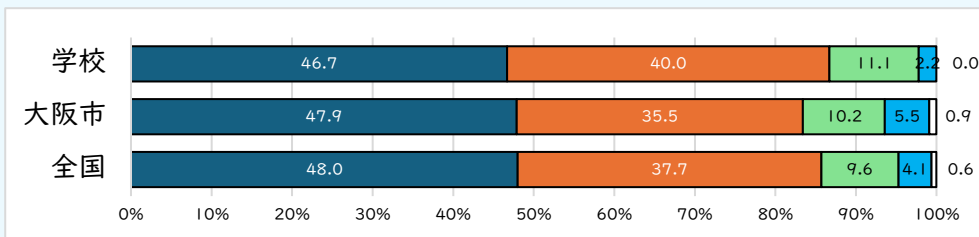
令和8年度 全国学力・学習状況調査 児童質問調査より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号 質問事項

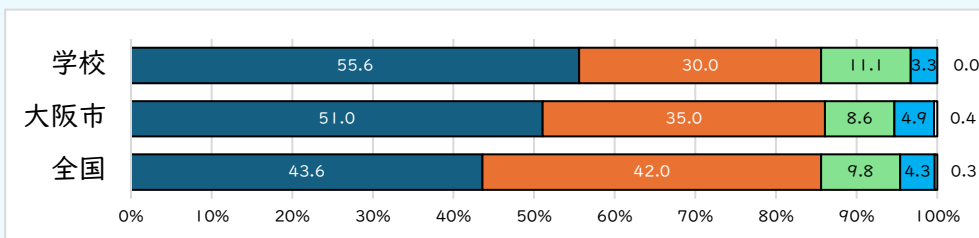
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(15) 学校に行くのは楽しいと思いますか



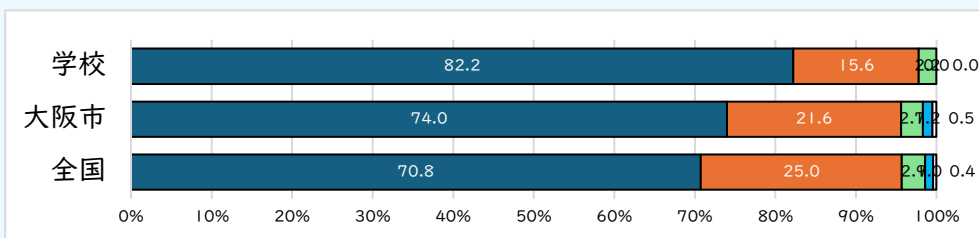
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(8) 自分には、よいところがあると思いますか



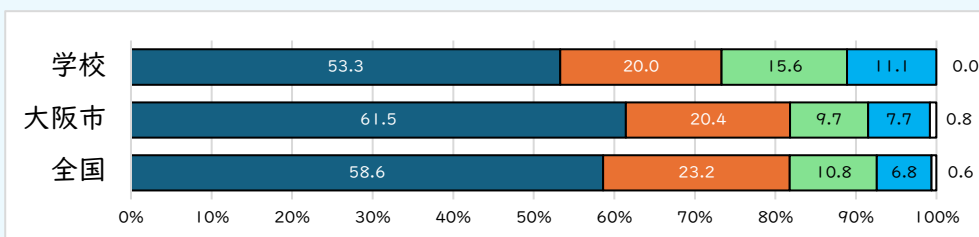
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(14) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



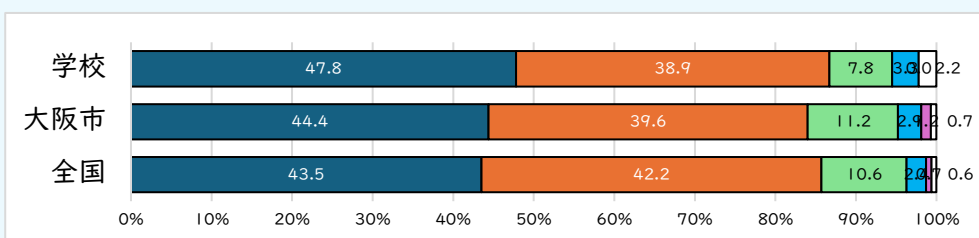
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(10) 将来の夢や目標を持っていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(42) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

令和8年度全国学力・学習状況調査 学校質問調査より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号

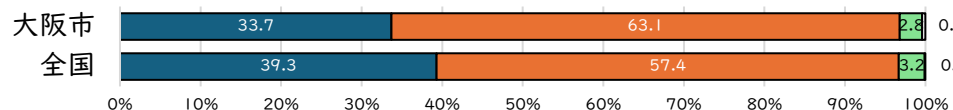
質問事項

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(84)

令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

【学校の回答】 2 行った

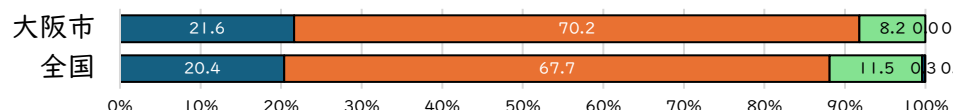


1 よく行った
2 行った
3 ほとんど行かなかった

(26)

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

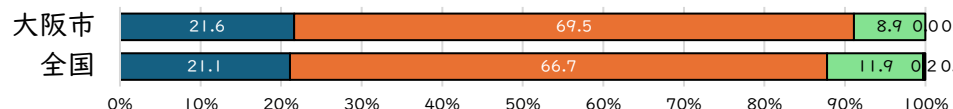


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(28)

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

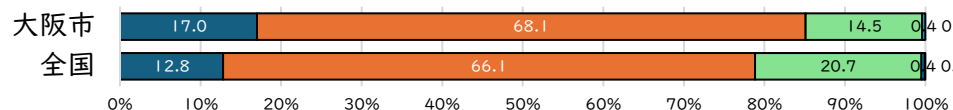


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(27)

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

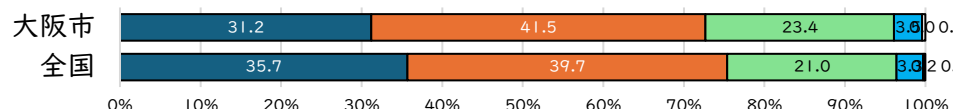


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(61)

調査対象学年の児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

【学校の回答】 2 週3回以上



1 ほぼ毎日
2 週3回以上
3 週1回以上
4 月1回以上
5 月1回未満